

失業反対に關する決議

失業問題は、都市の労働階級の利下の重要問題である。現在全國に百二十萬の失業者があることは、一面資本主義の没落を立証することであり、他面労働階級の生活が甚だしく恐畏されることとを証するものである。政府は、社会政策的偽購政策を以て、官僚幹部は、救済三介説を以て一般労働者及び失業者の現実的要素としての闘争を懐柔せんとしつゝある。

その向に処して吾が評議會は、昨年七月以來他團體と共に、共同して各地に失業反対又は失業対策委員会を形成して、失業反対のためには闘った。関東に於ては、関東労働組合の活動により、未だその實現を見ないが、全國委員会の提唱を見事に、神戸、魚ヶ島、豊田の提唱により、関西同盟会の設立を見るに到り、神戸、魚ヶ島、豊田の提唱により、吾々の運動が決して大衆とはなれぬものでなく、却て大衆の現実的要素と合したものである。